

第3回「貸切バス運転者に対して行う指導及び監督の改正検討 ワーキンググループ」 議事概要

【日時】平成28年10月3日（月）13:00～15:00

【場所】中央合同庁舎3号館8階 第1・2会議室

【出席者】北島委員、高柳委員、堀野委員、藪委員、安宅オブザーバー、石川オブザーバー、勝又オブザーバー、田中オブザーバー、長尾オブザーバー、西田オブザーバー、山川オブザーバー、阿部プレゼンター（東京海上日動リスクコンサルティング）

【議事概要】

■今後の検討事項について（資料1参照）

○ドライブレコーダーが故障していて映像が撮れていなかったということもあるの
で、定期的な保守点検の必要性を記載することが必要である。

■指導・監督マニュアル改正の方向性について（資料2及び資料3参照）

- 「発車前にシートベルトの着用状況を確認しましょう」の部分の文言を充実して
はどうか。
- シートベルト着用の徹底については、乗務員のアナウンスの中には聞こえないこ
ともあるなど差が出ている。アナウンスの後、乗客がシートベルトを着用する時
間を取ってから発車する、音声テープと乗務員のアナウンスの両方を活用する等
の方法が有効ではないか。
- 日本バス協会で作成した、シートベルト着用の徹底のためのDVDの活用につい
ても追記してはどうか。

■ドライブレコーダーを活用した指導・監督マニュアルについて（資料4及び資料5参照）

- 映像を1回見て問題点に気付く運転者もいれば、何回も確認しないと気付かない
運転者もいる。運転者にどのように気付かせるかがポイントとなる。
- クラクション=ヒヤリ・ハットと条件付けを行うことも有効である。運転マナー
が悪い者は事故が多い。マナーを重点的に見るには常時録画型のドライブレコー
ダーを活用する必要がある。
- ハインリッヒの法則は労働災害に適用される法則である。交通事故も近い関係性
になると言われているが検証がなされていないので、その点に留意が必要である。
- ハインリッヒの法則は、「事故とヒヤリ・ハットは同じ構造で発生する」というこ
とが重要なポイントである。このためヒヤリ・ハットを削減していくことで重大
事故を防ぐことができる。
- ヒヤリ・ハットの削減のためには、運転者の取組だけではなく、適切な運行管理

が重要である。

- 導入の初期段階で、ドライブレコーダーを「監視」の道具とするか、運転者の「味方」となる道具とするか等、どのように位置付けるかが重要である。監視の道具と位置付けるとよい効果が得られない。
- ドライブレコーダーの映像をどのように判断するかが重要であり、映像を適切に判断し、運転者に教育できる指導員を教育することも必要である。
- ヒヤリ・ハットを申告しにくい環境を造成してしまっている管理者もいることから、管理者に対し、「ヒヤリ・ハットの申告は大事故に発展させないために推奨されるものである」ということを理解させることが重要である。
- ヒヤリ・ハットや事故が誰のせいで起こったのかを問い始めるとよい効果が得られない。なぜ起こったのかという観点から分析を行わないといけない。また、適性診断の結果を活用し、運転者の特性に基づいて指導することが必要ではないか。
- 教科書的になり読みにくくなることを防ぐためにも、ドライブレコーダーの活用に関する好事例を3件程度入れていただきたい。

以 上